

■大都市住民に向けたニーズ調査

調査要綱	
調査対象	首都圏および関西圏在住の 20～79 歳の男女
調査期間	平成 16 年 10 月 27 日～11 月 10 日
調査方法	郵送配布・回収法
回答者数	1,021 サンプル（回収率：56.7%）

1. 調査の目的

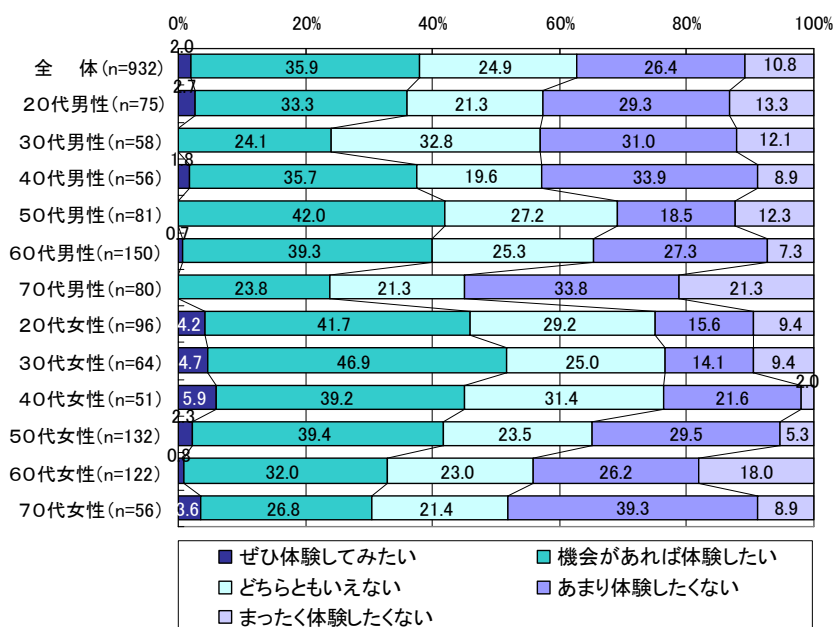
首都圏と関西圏の住民を対象に、ボランティア経験や国内での長期滞在の経験などを調査し、どのような人々がボランティアホリデーに対して関心があり、参加意向が高いのかを調べ、ボランティアホリデーのプログラム作成に役立てることを目的としている。

2. 調査結果概要

(1) 体験希望者層について

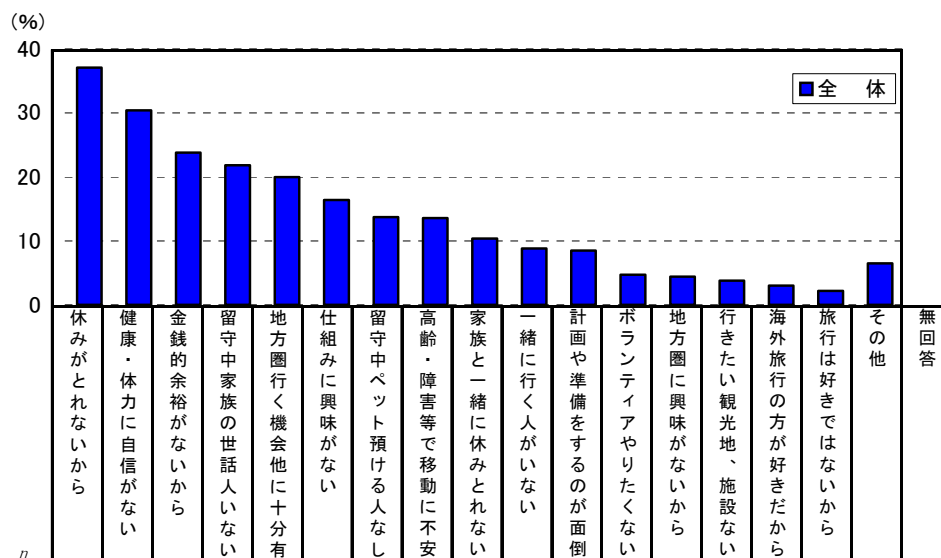
ボランティアホリデーを体験したいという回答（「ぜひ体験してみたい」＋「機会があれば体験したい」）は 4 割弱であり、性別・年代別にみると 20 代～30 代女性が特に高い。

図表 3-1 性・年代別「ボランティアホリデー」体験希望



ボランティアホリデーを体験したくないと回答した割合が比較的高かった 20 代から 50 代男性の理由としては、「休みがとれない」が最も多く半数を超えていた。また、20 代から 40 代では「金銭的余裕がない」と答える人の割合が多い。50 代以上になると、「金銭的に余裕がない」の割合は 3 割以下となるが、「健康・体力に自身がない」との回答が多い。

図表 3-2 「ボランティアホリデー」を体験したくない理由

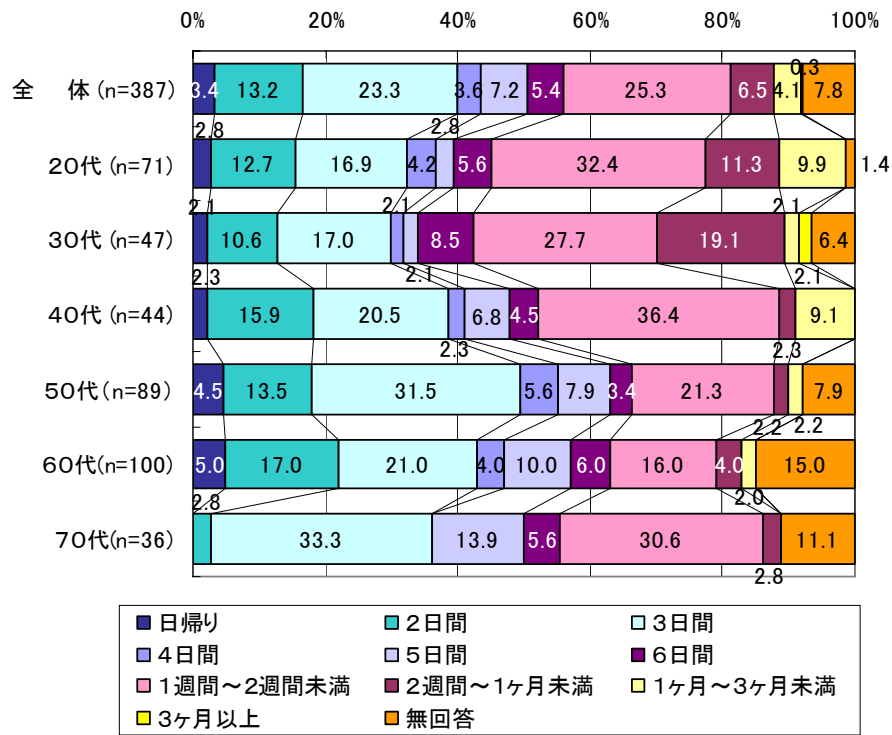


性・年代別	n	理由																		
		休みがとれないから	健康・体力に自信がない	金銭的余裕がないから	留守中家族の世話人いない	地方圏行く機会他に十分有	仕組みに興味がない	留守中ペット預ける人なし	高齢・障害等で移動に不安	家族と一緒に休みとれない	一緒に行く人がいない	計画や準備をするのが面倒	ボランティアやりたくない	地方圏に興味がないから	行きたい観光地、施設ない	海外旅行の方が好きだから	旅行は好きではないから	その他	無回答	
男性	20代	48	68.8	4.2	31.3	4.2	8.3	31.3	6.3	2.1	-	10.4	18.8	14.6	6.3	4.2	2.1	10.4	8.3	4.2
	30代	44	81.8	6.8	40.9	11.4	11.4	25.0	9.1	-	20.5	6.8	4.5	11.4	6.8	6.8	2.3	4.5	4.5	2.3
	40代	35	68.6	2.9	37.1	11.4	14.3	42.9	8.6	2.9	11.4	2.9	-	8.6	2.9	8.6	-	-	5.7	2.9
	50代	47	57.4	12.8	25.5	8.5	23.4	14.9	19.1	2.1	10.6	12.8	6.4	6.4	6.4	-	2.1	2.1	5.6	10.6
	60代	90	22.2	41.1	25.6	10.0	33.3	11.1	12.2	18.9	13.3	41.1	14	2.2	4.4	7.8	5.6	2.2	4.9	4.4
	70代	61	8.2	65.6	9.8	4.9	18.0	-	11.5	60.7	1.6	65.6	3.3	3.3	1.6	1.6	-	-	15.4	3.3
女性	20代	52	40.4	19.2	32.7	17.3	15.4	17.3	9.6	1.9	13.5	13.5	13.5	5.8	11.5	1.9	1.9	3.8	15.4	3.8
	30代	31	45.2	19.4	35.5	48.4	9.7	35.5	9.7	-	9.7	6.5	12.9	6.5	-	-	-	9.7	-	
	40代	28*	42.9	21.4	28.6	46.4	14.3	14.3	28.6	-	7.1	3.6	14.3	-	-	7.1	-	-	3.6	14.3
	50代	77	37.7	32.5	22.1	48.1	23.4	15.6	18.2	1.3	22.1	32.5	6.5	1.3	5.2	2.6	3.9	2.6	6.5	2.6
	60代	82	15.9	47.6	9.8	32.9	20.7	8.5	14.6	19.5	3.7	47.6	4.9	1.2	1.2	2.4	6.1	-	8.5	3.7
	70代	39	2.6	46.2	7.7	25.6	28.2	7.7	20.5	28.2	7.7	46.2	2.6	2.6	5.1	2.6	5.1	-	-	-

(2) 「ボランティアホリデー」の期間、費用等について

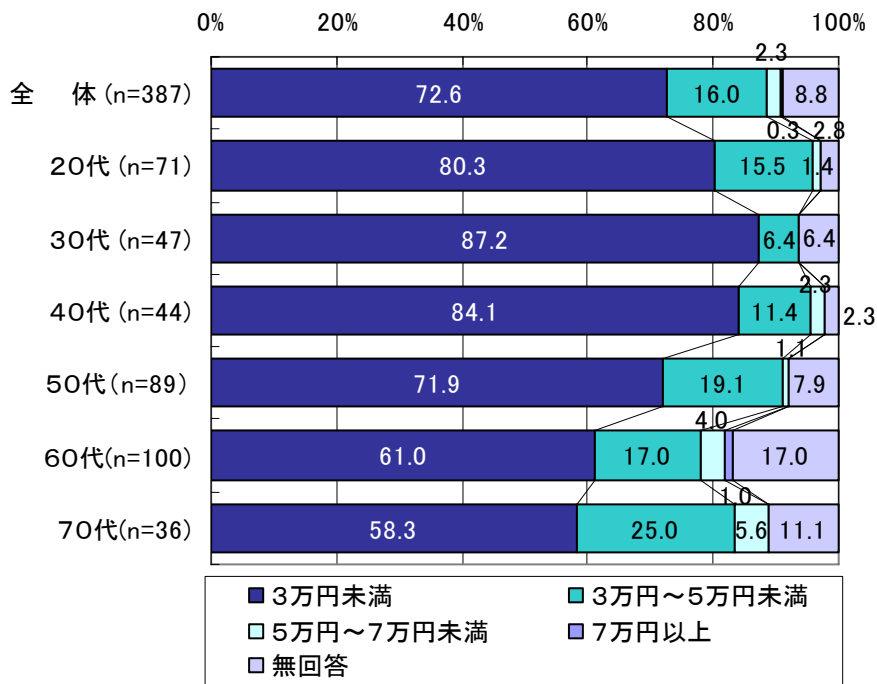
「ボランティアホリデー」を体験する期間として、「1 週間～2 週間未満」という回答が多く、平均は 9.3 日間であった。以上のことから、「ボランティアホリデー」の設定期間として、「1 週間～2 週間未満」が望ましいと考えられる。

図表 3-3 年代別 「ボランティアホリデー」体験の希望滞在期間



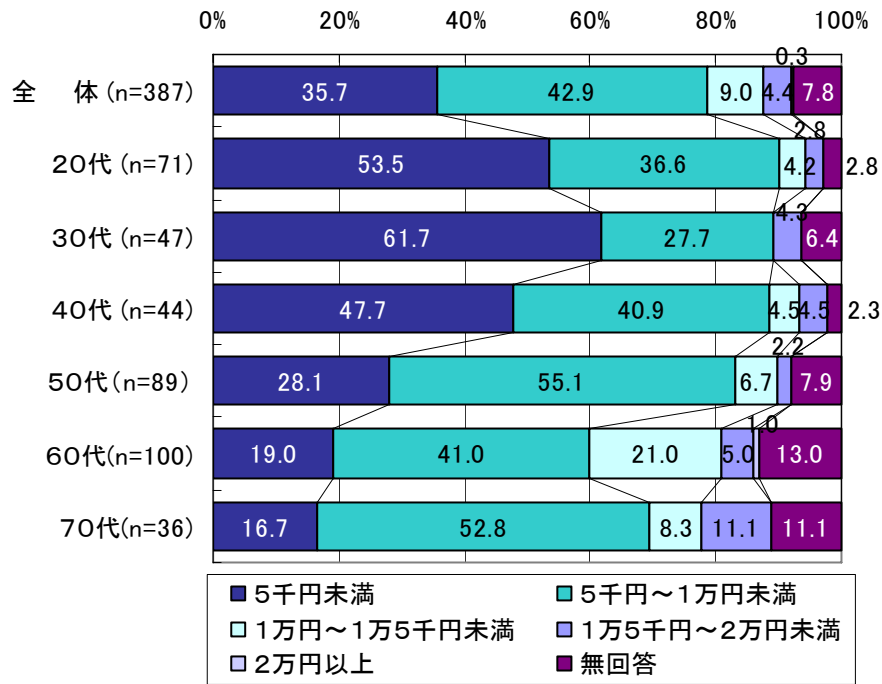
「ボランティアホリデー」参加意向者の負担可能な交通費は「3万円未満」が圧倒的に多く、平均は2.5万円であった。交通機関、旅行会社とタイアップして、安価なチケットを設定することができれば、より多くの参加者を集めることができると思われる。

図表 3-4 年代別 往復の交通費

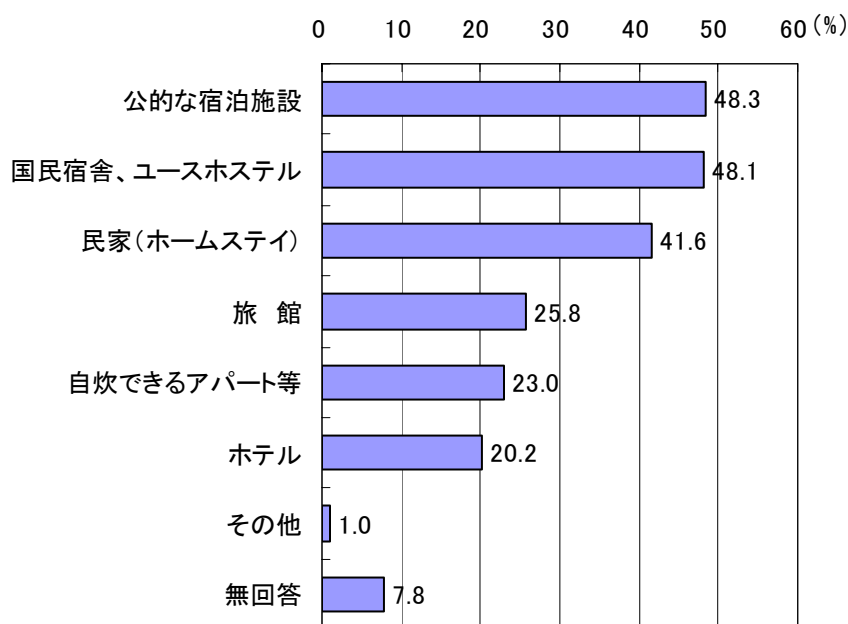


負担できる一日あたりの費用については、1万円未満を希望している人の割合が8割弱、比較的金銭的に余裕があるとみられている高齢者層でも約三分の二を占めており、平均6.6千円であった。また、希望する宿泊施設も、「公的な宿泊施設」、「国民宿舎、ユースホステル」、「民家」などを希望する人が多いことから、できるだけ安価な宿泊施設が求められていると考えられる。ただし、自由回答では、風呂、トイレは必須で、清潔でプライバシーが保たれる空間を希望する意見が多くみられた。

図表3-5 年代別 負担できる一日当たりの費用



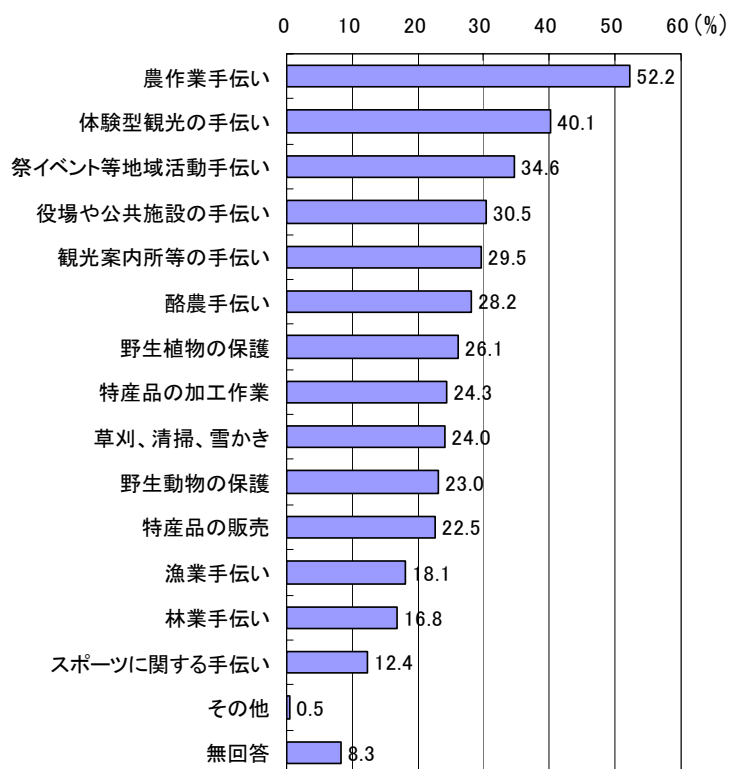
図表3-6 希望する宿泊施設



(3) ボランティアメニューについて

滞在地で行いたいボランティア活動については、半数以上の人々が「農作業手伝い」を希望している。ボランティアホリデーへの期待、要望に関する自由回答でも、やはり農作業を希望する人が最も多かったが、その内容は「農作業を手伝う」、「酪農体験・・・牛の世話をしてチーズ作りをしてみたい」、「馬や牛の世話などをやってみたい」、「田植えなどの農作業」などのように多様である。

図表 3-7 滞在地で行いたいボランティア活動について



4. アンケート結果から想定されるボランティアメニュー

調査結果を踏まえ、ニーズが高いと想定されるボランティアメニューは以下の通りである。

(アンケート結果から想定されるボランティアメニュー)

- 20・30代男性「都会では体験のできないような体を動かした作業」等
→ (農作業、酪農手伝いなど)
- 20・30代女性「都会では体験のできないような接客」等
→ (祭イベント等の手伝いなど)
- 50代以上男性「地域に貢献できるような軽作業」等
→ (軽い農作業、漁業手伝いなど)
- 50歳以上女性「地元の人々と交流できる軽い作業」等
→ (役場や公共施設の手伝い、特産品の販売など)